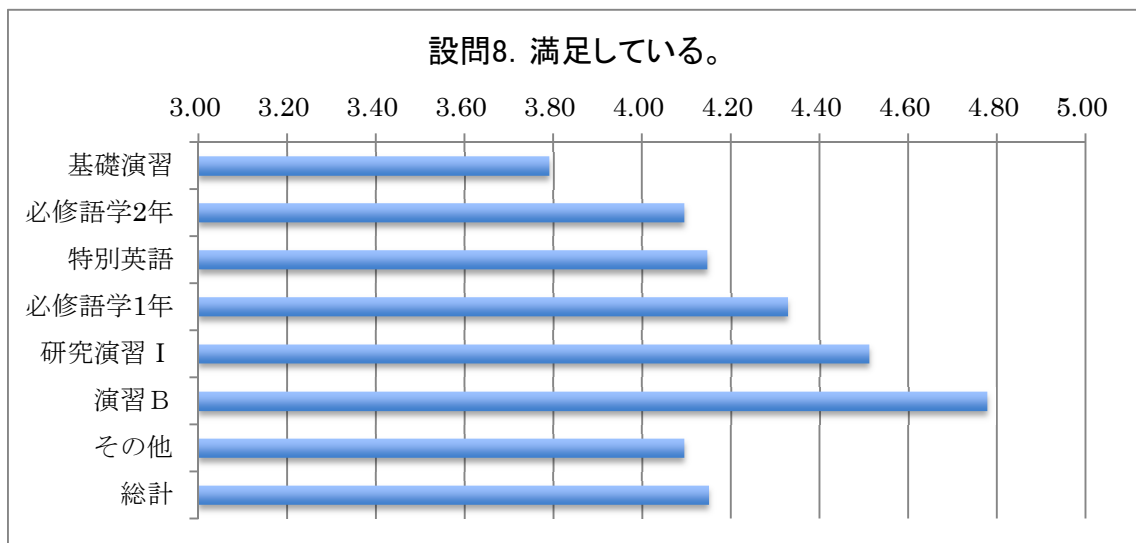


「学習成果実感調査」についての分析結果（詳細）

満足度について、基礎演習・必修語学1年・必修語学2年・特別英語・研究演習I・演習B・その他の科目群で比較したところ、以下のような順番になった。

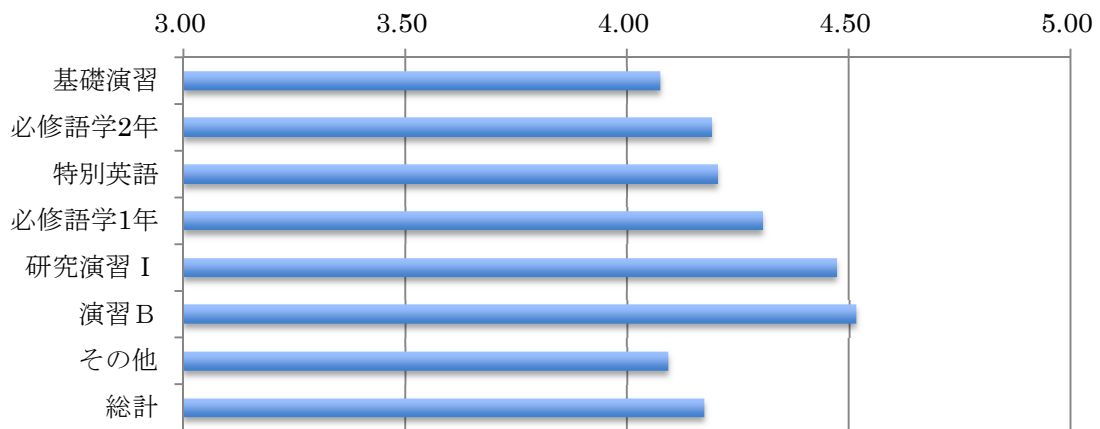
基礎演習 < 必修語学2年 < 特別英語 < 必修語学1年 < 研究演習I < 演習B



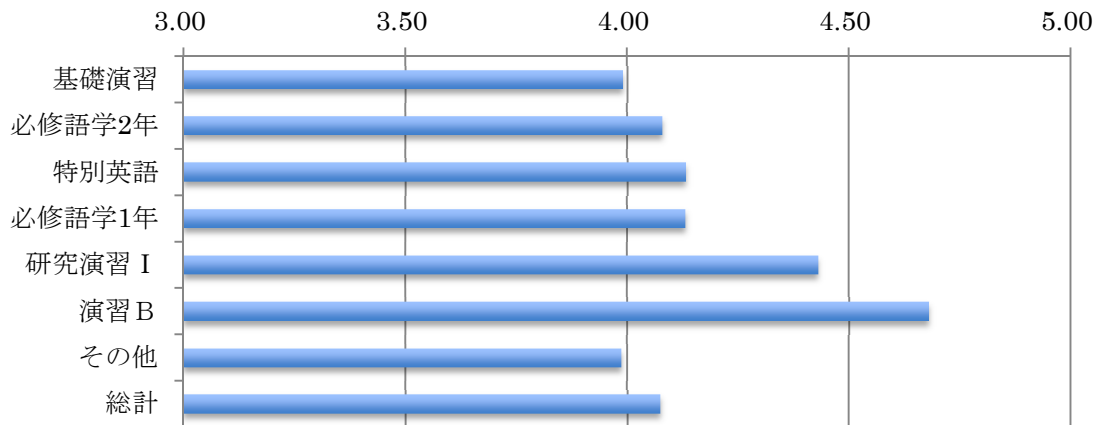
■ 特別英語

昨年と比べると、基礎演習 < 必修語学2年 < 必修語学1年 < 演習という順番はそのままであったが、特別英語だけが、必修語学1年より満足度が高かったのが、今年はそれよりも低くなった。この傾向は、設問4から設問7まで一貫している。

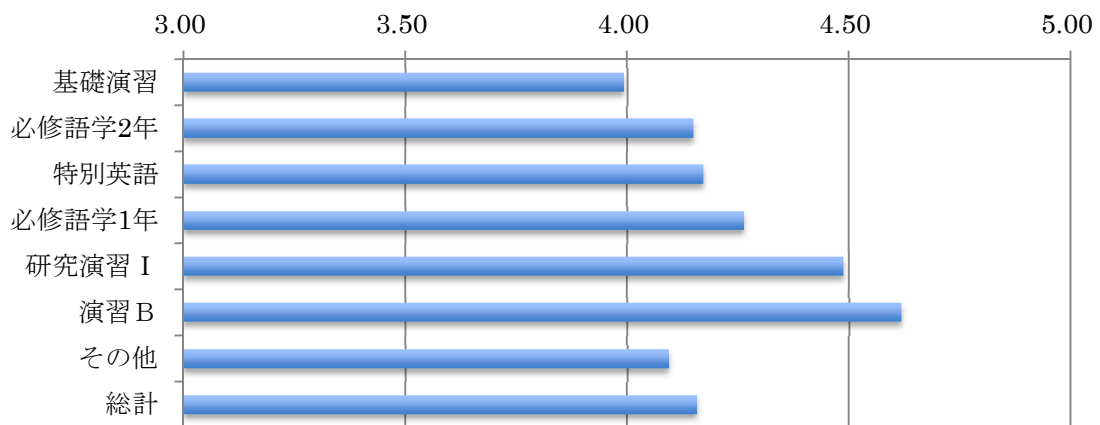
設問4. 授業に積極的に取り組んだ。

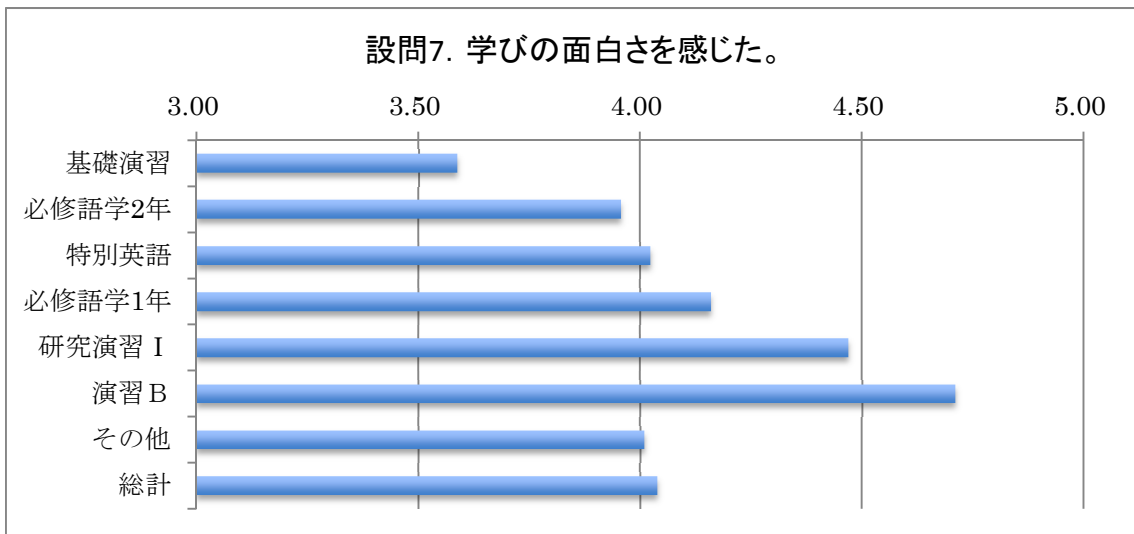


設問5. 授業の内容が理解しやすかった。



設問6. 知識やスキルを習得できた。

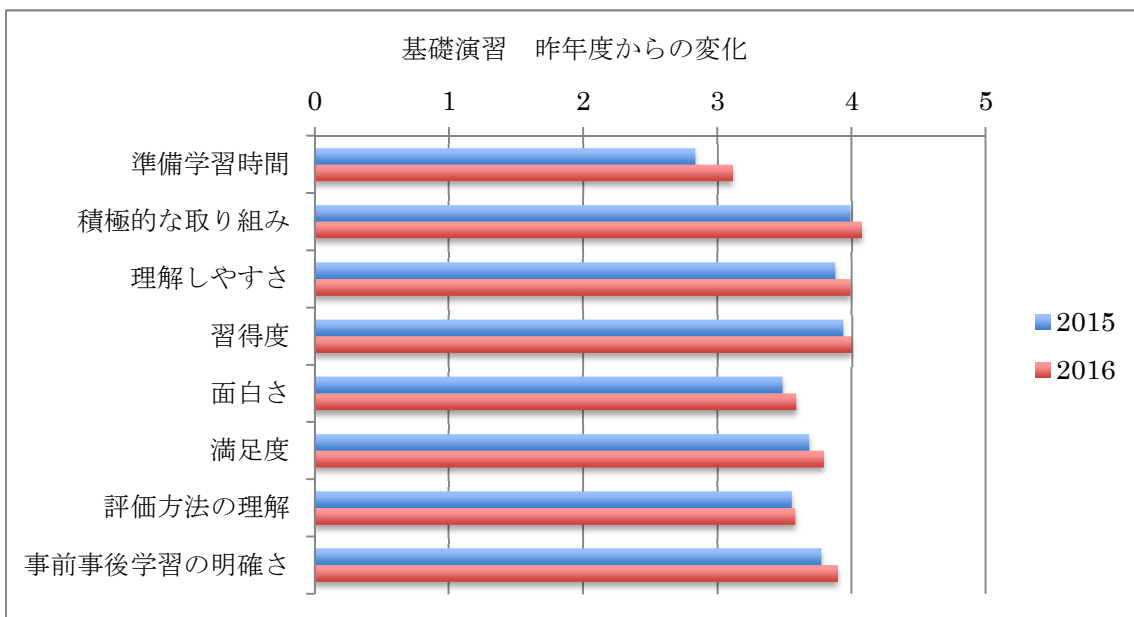




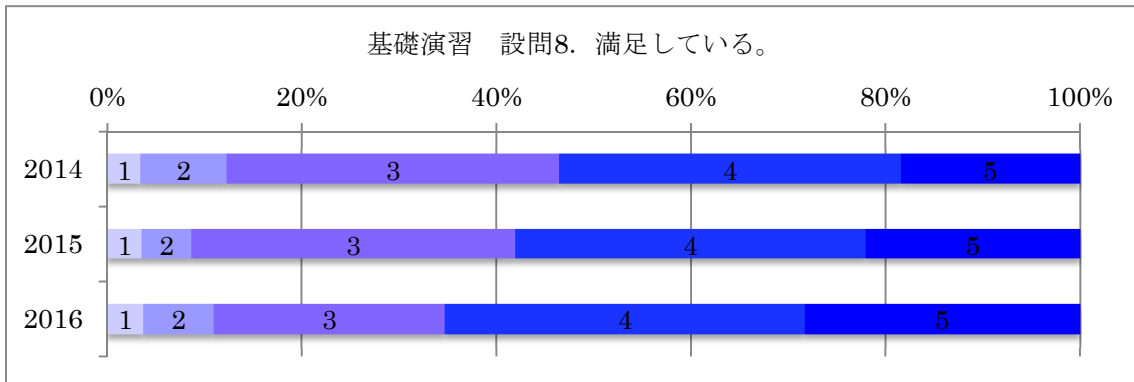
特別英語については、従来からの「事前登録科目」には大きな変化がないため、新たに調査対象科目となった「指定クラス」と「自動登録クラス」が原因であろうと推測されている。なお、新規採用の非常勤講師が担当する科目で数値が低くなっているため、ワークショップの実施等、講師をサポートするシステムの必要性が指摘されている。

■ 基礎演習

基礎演習は、従来通り、極めて評価が低い。しかしながら、昨年度と比べると、あらゆる指標が改善している。

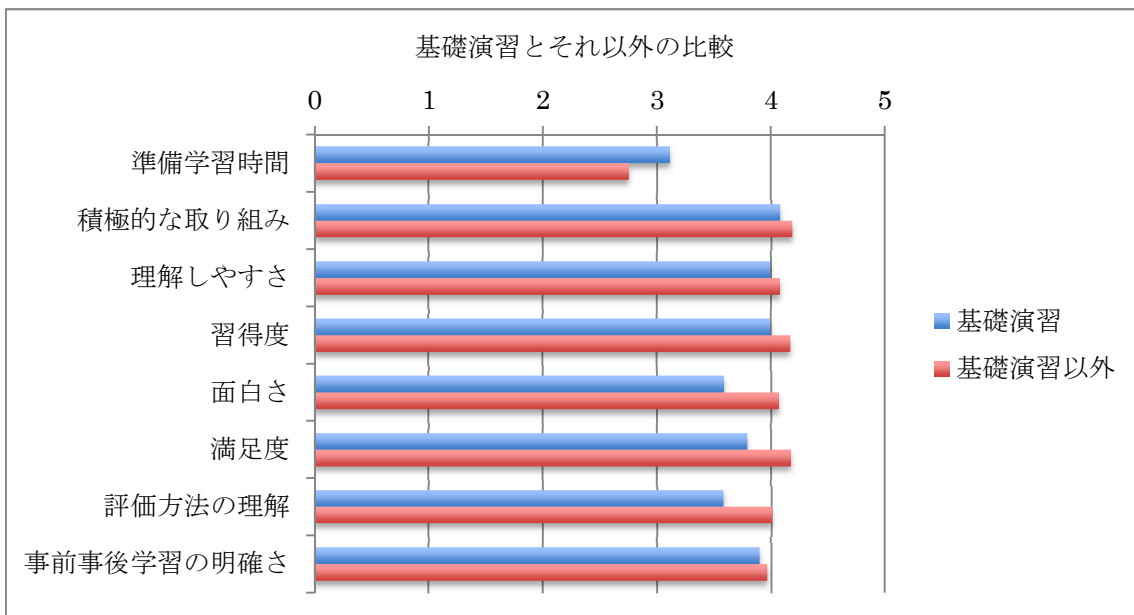


ただし、満足度については詳細に見ると、満足している者が増えている一方、満足していない者も若干増えている。

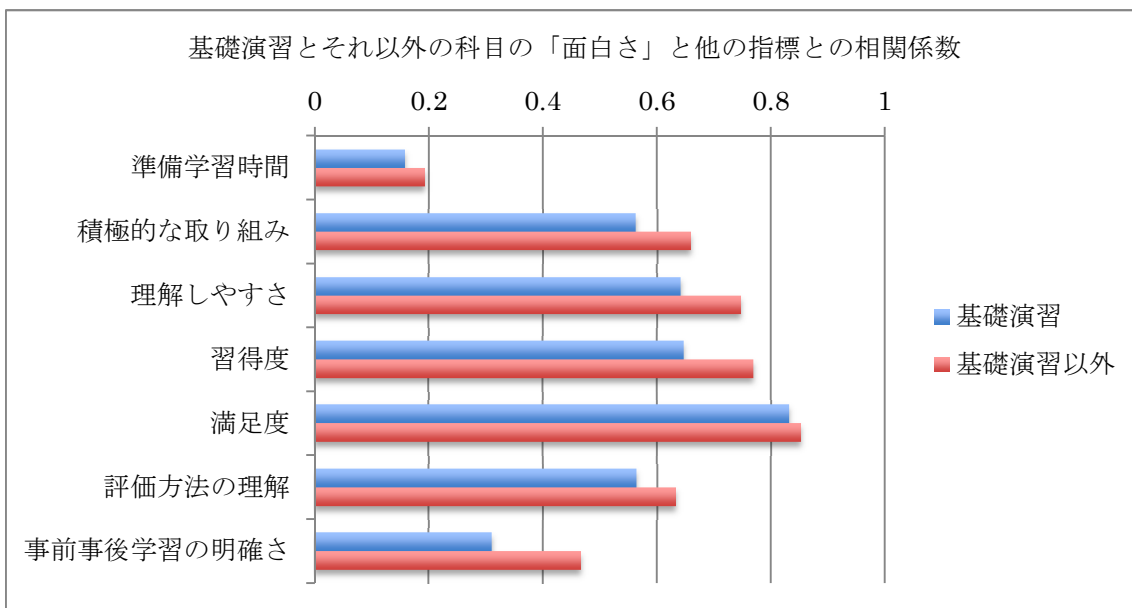
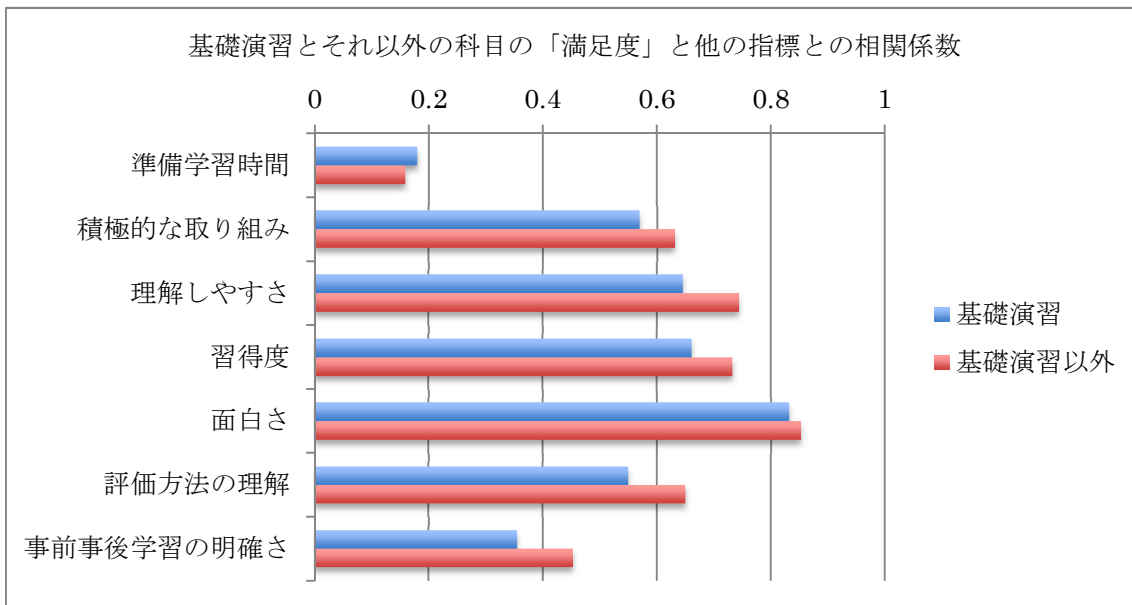


他の設問では、肯定的評価が増加するとともに、否定的評価は減少している（グラフは省略）。

基礎演習をそれ以外の科目と比較したところ、「準備学習時間」は多いが、ほとんどの指標において数値が低い。しかし、その中でも特に「面白さ」・「満足度」・「評価方法の理解」がそれ以外の科目との差が大きい。



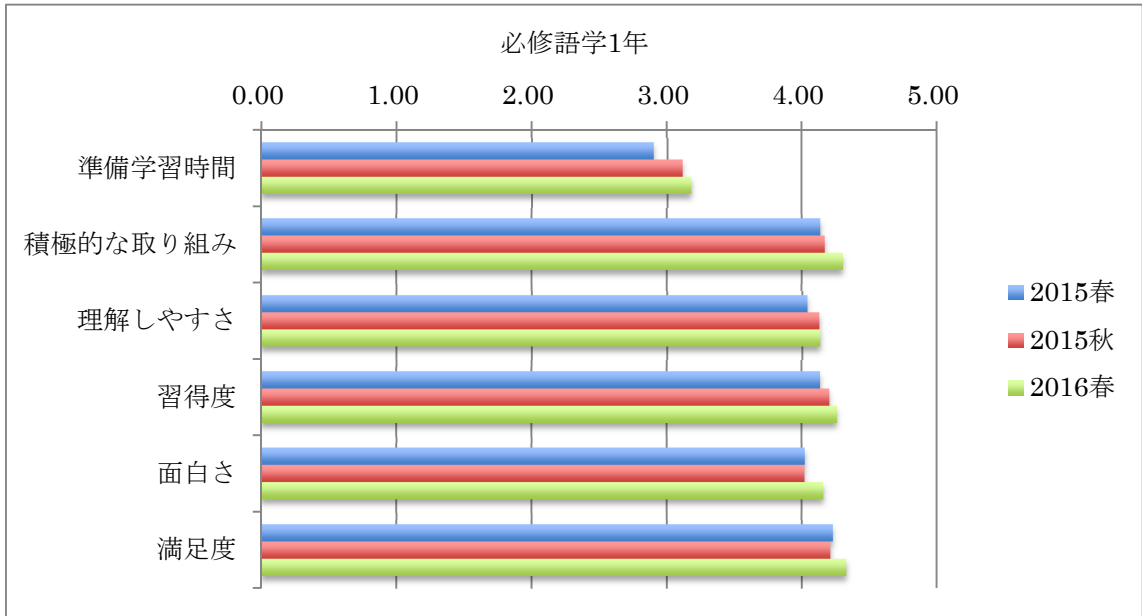
準備学習時間が増え、他の指標も改善しているものの、それが「面白さ」や「満足度」の改善に寄与している程度が低いようである。「満足度」と「面白さ」について、他の指標との相関係数を見ても、基礎演習は他の科目に比べて低く、他の指標の改善が「満足度」や「面白さ」に相対的に繋がりにくいことが表れていると考えられる。



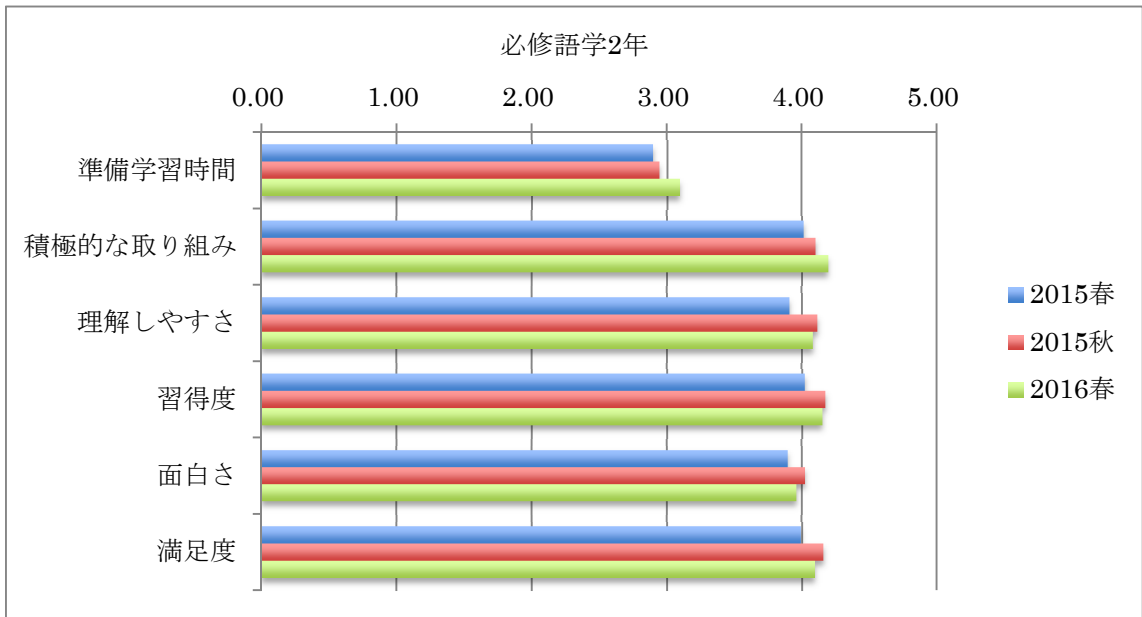
基礎演習は同じシラバスで教案も共有しているにもかかわらず、教員間での評価のばらつきが大きい。評価の高い教員の授業から改善のヒントが得られるかもしれない。

■必修語学

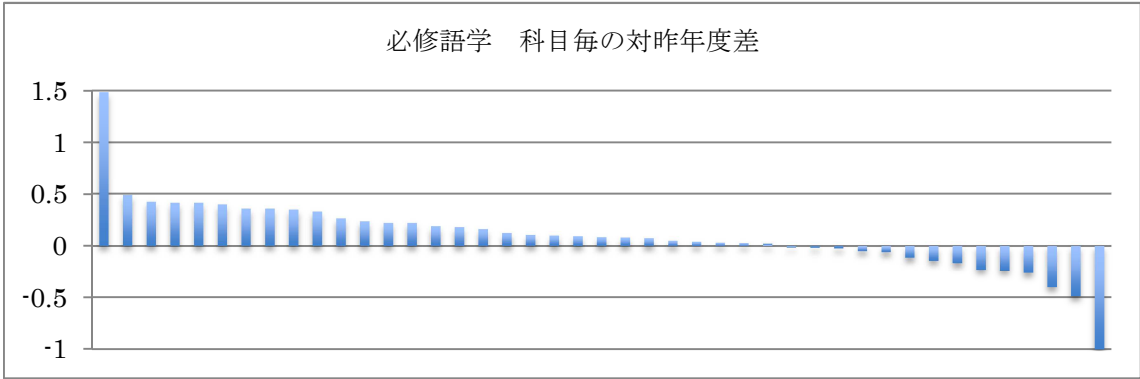
必修語学については、上述の通り、1年生に比べて2年生が数値が低いという傾向は変わらない。しかし、1年生は2015年春・2015年秋・2016年春と数値が改善した。



2年生も昨年度より改善した。2015年秋よりも低下している指標もあるが、従来から秋学期は春学期より数値が高くなる傾向があるので、そのためであろう。

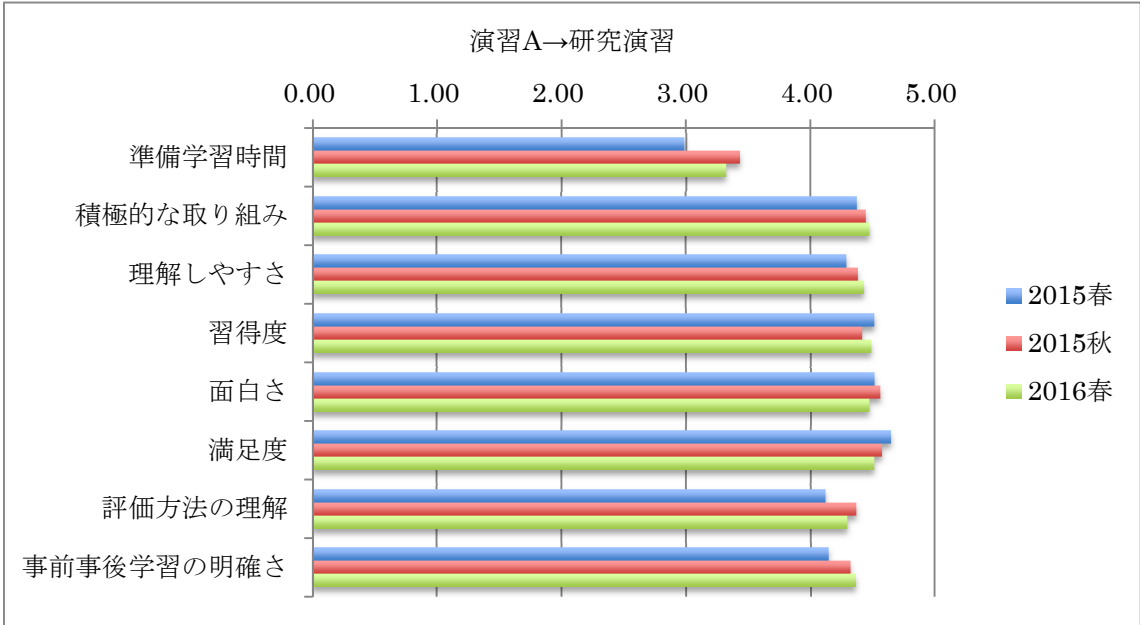


2015年春と2016年秋のいずれにおいても調査対象となった科目の対昨年度差を見ると、評価を下げた科目もあるが、評価を上げた科目の方が多い。



■ 研究演習

選択科目だった演習 A・B が選択必修科目の研究演習 I～IV に移行する最初の学期であった。そこで、今回は、これらの科目を全て調査対象科目にした。従来の演習 A と同じく研究演習 I も一貫して数値が高い。演習 A からの変化を追うと、「面白さ」と「満足度」で数値が若干低下しているが、多くの数値がむしろ向上している。



選択必修化に伴い、評価が悪化することも予想されていたことを考えると、少なくとも今回は従来の演習 A の良さが概ね維持されていると考えてよいと思われる。

演習 B も概ね昨年よりも数値が向上している。

